

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3 年 1 月 4 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	講演会	行事番号	200003634
開催日	令和 2 年 12 月 5 日（土）～ 令和 2 年 12 月 18 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	Web 配信（オンデマンド配信）		
テーマ	酵素について学ぼう！～ALP/LD_IFCC へ移行完了に向けて～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	—		
講 師	講演 1. 「酵素項目の基礎知識」 名古屋第一赤十字病院 尾崎 靖将 講演 2. 「ALP/LD_IFCC 法について」 愛知医科大学病院 森部 龍一 講演 3. 「酵素項目における標準化について」 藤田医科大学病院 齊藤 翠 ※講演 3 は、生物試料分析科学会共催の特別講演		
内 容	今回、ALP、LD について JSCC 標準化対応法から IFCC 法への移行が、2020 年 4 月から 1 年間かけて実施されており、2021 年 3 月末完全移行に向け、ALP/LD_IFCC を含め酵素項目の基礎に振り返り講演を実施した。講演 1 では、酵素項目の基礎知識として、酵素活性測定の意義から各血清酵素項目の概要として、臨床的意義や変動要因、アイソザイムの働きを解説いただいた。講演 2 では、ALP と LD の IFCC 法への移行について、各々の項目における試薬組成・測定原理をおさらいし、今回の移行に関して、経緯から、変更に関するポイント・注意点などの要点をまとめてわかりやすく解説いただいた。講演 3 では、酵素項目全般の標準化をテーマに、標準化の変遷や、国内における標準化の現状、問題点、および今後の動向について解説いただいた。 今回の講演が、会員施設に於いて切り替え作業の一助となれば幸いである。 今回 A L P / L D のように大きな変化についても、いち早く最新の情報発信に努める必要があると再認識した。		
参加者	総数：118 名（会員 113 名、県外会員 5 名）		
共催、後援など	生物試料分析科学会 共催		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：令和 3 年 2 月 26 日 報告者：佐藤 文明

行事種別	研究会	行事番号	200005692	
開催日	令和 3 年 2 月 6 日（土）～ 令和 3 年 2 月 19 日（金）			
時間	開 始	—	終 了	—
場所	Web 配信（オンデマンド配信）			
テーマ	2020 年度愛臨技精度管理報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	—			
講師	講演 1.「臨床化学部門 精度管理報告」 刈谷豊田総合病院 神谷 美聡／藤田医科大学岡崎医療センター 西垣 亮 講演 2.「免疫血清部門 精度管理報告」 豊橋市民病院 森下 拓磨 講演 3.「精度管理の基礎～実践」 シスメックス株式会社 学術本部 学術情報部 高柳 稔			
内容	今年度実施の愛臨技精度管理報告と題して、講演 1 では、臨床化学部門における報告を実施した。臨床化学検査部門では今年度は新型コロナの影響もあり、調査項目を絞り調査を実施した。134 施設が参加され昨年度と比べ 4 施設増えた。アルブミンに関しては、依然 BCG 法・BCP 法が採用の施設もあるが、約 90%が BCP 改良法で統一されている。今回のアンケート結果より IFCC 法へ変更済みが 13%、2021 年 3 月末までに移行が 56%と、約 7 割の施設で移行完了される見込みである。報告値に関しては、JSCC 法（換算値含む）との一定期間併記報告する施設と、IFCC 法のみで報告する施設が半々との結果となった。引き続き情報提供に努め、完全移行を目指す。また、JCCLS 共用基準範囲を採用する施設も増加傾向にあることが確認できた。講演 2 の免疫血清部門においても、項目数を限定し実施の報告であった。臨床化学検査部門同様、TSH のハーモナイゼーションについて確認し、標準化の動向を確認した。各施設の対応については、ALP/LD_IFCC と比して、やや緩やかな部分が見受けられる。講演 3 では、シスメックス社より精度管理の基礎～実践と、日常の精度管理についての知識をより深めることができた。今後も最新の知見を発信すべく、努めていきたい。			
参加者	総数：98 名（会員 98 名、県外会員 0 名）			
共催、後援など	なし			